

85歳すぎまで働ける、社会的活動に参加できる社会を目指して

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに一年末には「小説」を読もうー

(1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

2010年の「開倫塾の時間」の放送は、今日が最後になります。また来年1月1日によろしくお願ひ致します。

(2)先日12月15日に本屋さんに行ったときに、「KAGEROU」という本を買いました。これは、タレントの齋藤智裕さんがお書きになったそうですが、私は著者がタレントであることを知らずに買って、その日のうちに読み終えました。この本は、命の大切さをドナーということを題材にして小説の形で表現した作品で、人間の尊厳を考える上で勉強になりました。

(3)「この世の中に『生きてちゃいけない人』なんかいないんじゃないかな」という箇所や、「『明日はもう生きられないかも』って思っているとね、今日という日がどんなに大切に、貴重で、特別な一日かがよくわかる。なにを見てもキレイで、感動的で、愛くるしくて、空を飛んでいく渡り鳥の群れや公園でじゃれあっている仔犬を見ているだけで自然に涙が出てくるの」という箇所を読み、命の大切さや人間の尊厳を考える上でとても勉強になりました。

(4)他の箇所も筋としてはおもしろかったのですが、先程述べた箇所が私にとってはためになりました。12月15日にポプラ社から出版された齋藤智裕さんの「KAGEROU」という本を、皆さんに御紹介させていただきました。年の暮れですので、たまにはこのような小説を読むのもおもしろいと思います。

(5)最近読み直していた小説でおもしろいなと思ったものは、樋口一葉の「大つごもり」です。これは、24歳で亡くなった樋口一葉が、21歳の時にお書きになった素晴らしい小説です。明治初年の東京下町の庶民の生活が生き生きと描かれています。その中で大変な思いをして仕事をしてお金を貯めた主人公と、その主人公が大変困っている親戚の人のためにお金を失敬してしまうというお話です。このような内容が非常に人情味豊かに書かれています。樋口一葉の「大つごもり」という本をぜひ大晦日までに読んでいただければと思います。「たけくらべ」や「十三夜」などもあります、「大つごもり」もおもしろいですよ。

(6)さて、今回は、年末ですのでいろいろなお話をさせていただきたいと思います。

2. 85歳すぎまで働ける、社会的活動に参加できる社会を目指して

(1)今、非常に景気が悪いようです。超円高や超消費不況、超高齢化、国が借金体質であり地方も大変な状況であると思います。しかし、ただ歎いているだけでは時間がどんどん過ぎてしまうだけです。このような状況においては、企業の役割が今ほど期待されることはないと思います。

では、市民が企業に期待することは何かと言いますと、どのようなことをしても企業や事業所を存続してもらいたいということです。具体的に言いますと、雇用維持が一番大事だということです。ですから、これからは皆さんで雇用の維持に向けてどのようにしたらよいのかということを考えていくとよいと思います。もちろん経営者も考える必要がありますが、そこで働く人たちや地域に住む我々も一緒に考えていきたいと思っています。

(2)これに加えて、国や自治体の財政破綻を回避するためには、団塊の世代、つまり今 60 歳をちょっと過ぎたくらいの方々が 75 歳を迎える 2025 年までにあと 15 年ぐらいありますが、その団塊の世代の方々が 75 歳を迎える前にみんなで社会を支え合わなければなりません。ですから、できれば 75 歳過ぎまで働けるような職場づくりをすることが必要です。もっと言えば、85 歳過ぎまでみんながなんとなく働いていて、お金も稼げて、税金を少しでも納めることができる。そのような状況を国や地域をあげてつくりないと、国や自治体の財政破綻が起ってしまいます。ですので、様々な工夫をして地域の労働参加率を大幅に上げておく必要があると思います。

(3)いろいろな動きがたくさんありますが、私は東京にあります経済同友会という経済団体の幹事をやらせていただいております。先日から来年に向けて、10 年後の国の形をどのようにしたらよいのかという議論をずっとしております。2020 年までに 70 歳まで働ける社会にするために企業はどうしたら貢献できるのかという議論もしております。私の意見としては、70 歳までではなく 80 歳まで、できれば 85 歳過ぎまで働ける社会が大事かと思います。85 歳まで働ける社会に向けて中高年齢者の「雇われる能力」、これを難しい言葉で「エンプロイアビリティ」と言いますが、この能力をどのようにしたら向上できるかということを、企業は社員の方に 40 代・50 代から自分自身で具体的に考えてもらう、また会社としても考える。そのようにして、社員の能力向上をはかることが必要かと思います。

(4)また、NPO や社会的な課題を解決する社会的企業でいる限り、職場や社会で活動する場をどのように広げたらよいのかということを考えて、社会的な問題の解決のために NPO や社会的企業をどんどん増やしていくことも大事だと思います。85 歳過ぎまで社会的活動ができる社会をどうつくるかも大切なテーマです。

(5)最後になりますが、学び続ける人は仕事をする能力も増し、寝込んだり認知症になったりする確率が減るといことが言われております。ですから、できれば 85 歳過ぎてもいろいろところで学び続ける。一番よいのは、たとえ 1 週間に 1 回でもよいですので、もう一度大学や短期大学、専門学校などに通い続けて自分の知性を磨く、仕事や社会的活動をするスキルを身につける。そのように仕事や社会的活動をしている間ずっと学び続けて 85 歳を迎える。そして、少しでもいいから 85 歳過ぎてもそれをやり続けることができれば、素晴らしい社会になると思います。

3. おわりに

今日は年末ですので、これからどのような社会ができていくのかを考えることの一つとして、85 歳過ぎまで働ける、社会的活動に参加できる社会の実現にはどうしたらよいかについてお話をさせていただきました。

皆さんはどのようにお考えでしょうか。

— 2012 年 8 月 20 日加筆・訂正、林明夫 —